

## 造林融資枠の拡大について

造林融資はここ数年来実需は急速に伸びて来たのに対して、融資枠の予算が不十分のため昭和34年度は年度未調整で均衡が取れたが、35年度は大造林は60%の打ち切りとなり、36年度にいたっては予算6億円に対して実需は14億円予想されている。(次表参照)

このような事情のため7月初めより林総協が中心となり、紙パルプ連合会及び林経協が力を合せて、対策を協議、別紙意見書を提出、その後経団連森林委員会でも本問題を取り上げて9月11日林野庁及び公庫の担当責任者と懇談する等真剣な努力を続けている。

しかし、大蔵省の担当官は勿論農林省内にも大造林者(500町歩以上の山林経営者)は年々相当な伐採収入をあげたり、又は相当の配当をしている会社等もあり、4.5%の金利を若干あげるべきではないかという声が大で枠の増大は勿論のこと予算運用面においても重大な支障を来しているらしい。

現状のままでは全く八方塞がりであり、一方においては木材格価安定緊急対策としての増伐要請、増伐減税は法人税については余り期待出来ぬ現在、補助金はなく融資さえも不十分というのでは動きがとれないので、これを打開する方策を検討中である。

大造林者といえども低利融資4.5%の利率据え置きにして、融資枠を増すべきであるということをお蔵省その他に具体的に説明出来る資料を林野庁より要求されているので、よいお考えがあつたら是非事務局へ御教示方御願ひ申し上げます。

造林補助金と同様融資についても拡大造林、林種転換が優先されるべきであることは議論の余地はないけれども、そう割り切れないところに悩みがある。

本協会員の資金需要の実態については、近くその詳細を御照会するようにしたいと考えていますからその節は是非御報告を賜るよう御願ひ申し上げます。

36. 9. (森林組合課)  
(単位：百万円)

農林公庫造林資金融資予算融資実績対照表

区	分	昭和33年度			昭和34年度			昭和35年度			予算対前年度比		融資実績対前年度比		昭和36年度 予算
		予算	実績	差引 過不足	予算	実績	差引 過不足	予算	実績	差引 過不足	昭34年度 昭33年度	昭35年度 昭34年度	昭34年度 昭33年度	昭35年度 昭34年度	
造林	補	165	56	109	165	135	30	171	64	107	104%	241%	47%	183	
	大造林	308	515	△ 278	312	626	△ 314	542	540	2	173	122	88	600	
	小造林		71		280	344	△ 64	350	455	△ 105	125	484	129	600	
	公有林	0	0	0	420	623	△ 203	350	690	△ 340	83	—	111	800	
林	補助	308	586	△ 278	1,012	1,593	△ 581	1,242	1,685	△ 443	329	272	106	2,000	
	小	13	46	△ 33	13	18	△ 5	27	32	△ 5	100	39	178	27	
	樹苗養成	486	688	△ 202	1,190	1,746	△ 556	1,440	1,781	△ 341	244	254	102	2,210	
	計	234	353	△ 119	245	415	△ 170	257	396	△ 139	105	118	95	387	
林道	補助	782	337	445	763	272	491	576	251	325	98	81	92	198	
	非補助	1,016	690	326	1,008	687	321	833	647	186	99	99	94	585	
	計	49	46	3	52	98	△ 46	227	42	185	106	213	43	215	
伐	災害(補助,非補助)	1,065	736	329	1,060	785	275	1,060	689	371	99	107	88	800	
	計	1,930	2,054	△ 124	1,930	2,020	△ 90	1,880	1,930	△ 50	100	98	96	1,500	
林業改善維持改善	伐採調整	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1,000	
	共同利用施設	16	37	△ 21	16	22	△ 6	16	32	△ 16	100	100	145	16	
合	計	3,497	3,515	△ 18	4,196	4,573	△ 377	4,396	4,432	△ 36	120	130	97	5,526	

(注) 34年度融資実績には公有林73百万円を含む。

貸付金の種類	貸付の相手方	利率(年利)			償還期限			据置期間		
		昭33年	昭34年	昭35年	昭33年	昭34年	昭35年	昭33年	昭34年	昭35年
造林に必要な資金 (1) 造林	森林組合, 森林組合連合会, 農業協同組合, 林業を営む者	一般補助 6分5厘	同	同	20年以内	大造林 15年以内 小造林 10年以内	5年以内	大造林 10年以内 小造林 20年以内	同	
		一般非補助 4分5厘	同	同	同	同	同	同	同	
(2) 樹苗養成施設	森林組合, 森林組合連合会, 農業協同組合, 中小企業等協同組合, 樹苗養成の事業を営む者	5分	同	同	20年以内	10年以内	5年以内	同	同	
林道の改良, 造成又は復旧に必要な資金	森林組合, 森林組合連合会, 農業協同組合, 林業を営む者	一般補助 7分5厘 一般非補助 6分 災害 6分	同	同	15年以内	同	2年以内	同	同	
森林の立木の伐採制限に伴い必要な資金(伐採調整資金)	森林組合, 森林組合連合会, 森林法第2条第2項に規定する森林所有者たる個人	4分	同	同	25年以内	同	—	—	—	
林道維持改善資金	森林組合, 森林組合連合会, 農業協同組合, 林業を営む者	—	—	5分5厘	—	—	20年以内	—	—	
農林漁業者の共同利用施設の改良, 造成, 復旧又は取得に必要な資金 (林業施設, 木炭倉庫, その他林業共同利用施設)	森林組合, 森林組合連合会, 農業協同組合, 中小企業等協同組合, 林業を営む者	災害 7分 一般 7分5厘	同	同	15年以内	同	2年以内	同	同	

## 造林融資枠の拡大についての要望

### 36. 8. 14. 森林資源総合対策協議会

I. 日本経済の発展にともなつて増大する木材需要をまかなうために、私有林の積極的伐採利用が強く望まれている。

一方、私有林所有者は、計画的な伐採と造林によつて安定した経営が行われ、間断のない収穫のあることを望み、伐採跡地については、速かな造林を行なうために、長期低利資金の確保を強く要望している。

将来の木材需給の安定、国土保全のためには、年間約40万町歩の造林が是非とも必要と考えられるが、私有林の造林が、昭和29年の39万町歩をピークとして下降し、以後延びなやみ、さらに当面の緊急伐採に伴う跡地造林が附加されるべきであるにもかかわらず融資金額の不足のために、造林計画の遂行が頓挫せざるを得ない状況である。

II. 1960年世界農業センサスの結果によつても、10 ha以上の森林所有者の森林は、全私有林面積の半ばに及んでいる。これらの森林は比較的奥地にあるため、拡大造林、林種転換がおくれていたが、最近広葉樹の利用が急速にすすんできたので、積極的に伐採して造林する背景がととのつてきた。しかしながら

(イ) 大規模奥地林の拡大、林種転換造林は里山造林とは大変異つて新植、その後の手入れなどの経費もかさみコスト高になる。

(ロ) 奥地林は成長もわるく、したがつて生産期間がながくなる。

(ハ) またこれらのところは、水源かん養、国土保安に重大な関係をもち、公共性も高いので伐採跡地は急速に造林する必要がある。

以上のように、これらの森林の造成は、里山造林に比して条件がわるく、さらに林業そのものの長期性が加わるので、実際には一般資金の吸引がきわめて困難で、今後長期低利造林資金の確保が必要である。

III. このようなことで、新しい積極的な造林の芽ばえを育み、造林を推進するためには、特別な長期低利融資金の必要量の獲得について強力な対策が根本的に確立されなければならない。

しかるに昭和35年度のこれら奥地林を多くもつ、いわゆる非補助大経営者への融資(A)は、未融資のまま3億円近くが昭和36年度に引継がれ、36年度分では実質需要15億円に対して、

現在はわずか6億円が予算に掲上されているに過ぎず、前者と合せて12億円近くが不足する情勢である。

かくては基本的造林計画の遂行が不能となる。したがって造林補助金、造林融資(B)の拡大も必要であるが、非補助大経営への融資額の不足は、最近とくに顕著であるので、今後はとくべつにこれらへの融資が拡大されるべきである。また造林融資見通しが暗いために、相当の蓄積を保有する大規模経営者が伐採をちゆうちよし、造林融資の面からも木材不足に輪をかけることになる。

したがってこの造林融資基金として、国有林野事業特別会計剰余金を十分に活用し、下記の通り造林金融の枠を確保されんことを強く要望するものである。

### 記

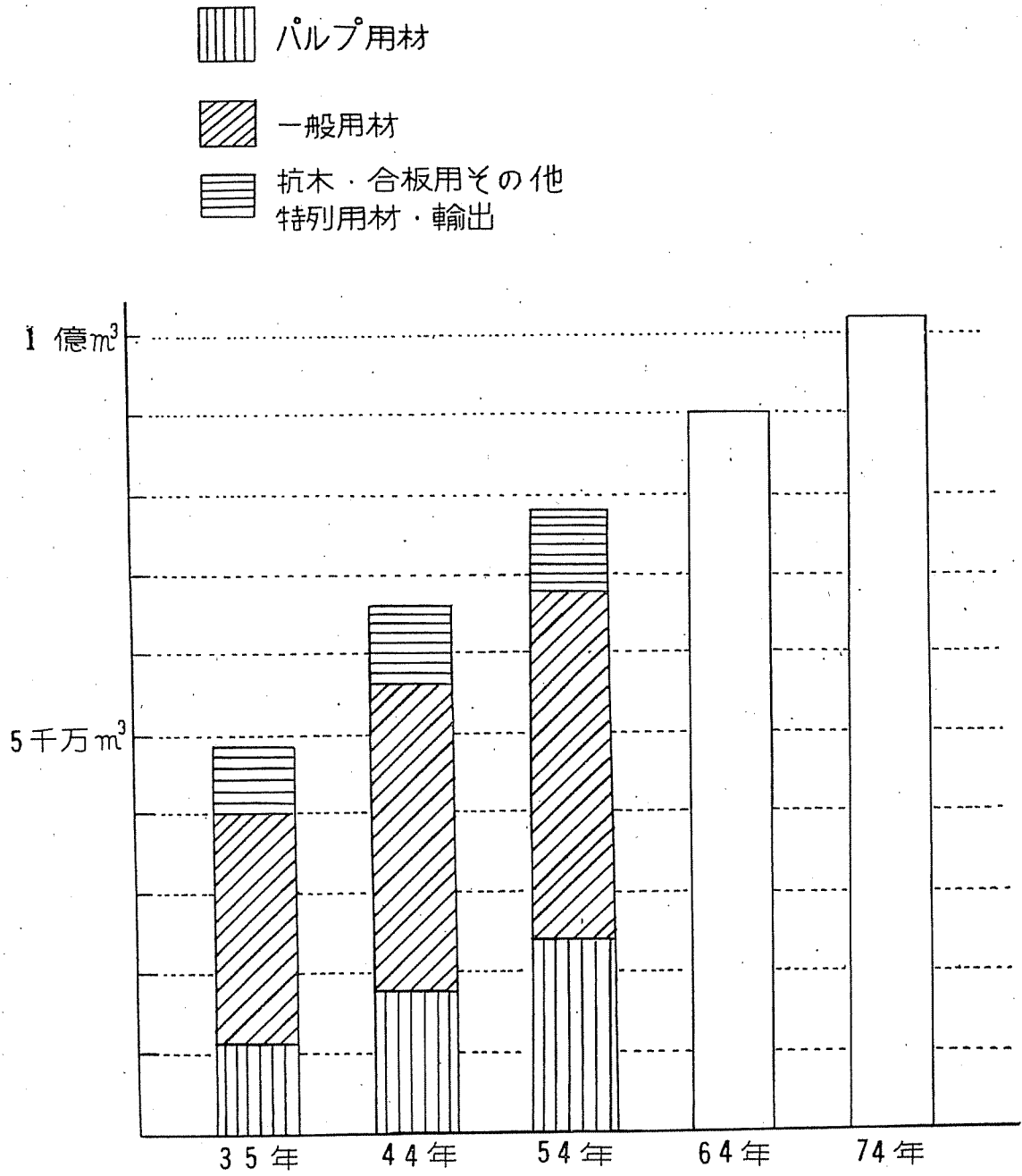
#### 非補助大経営者の融資希望額

(千円)

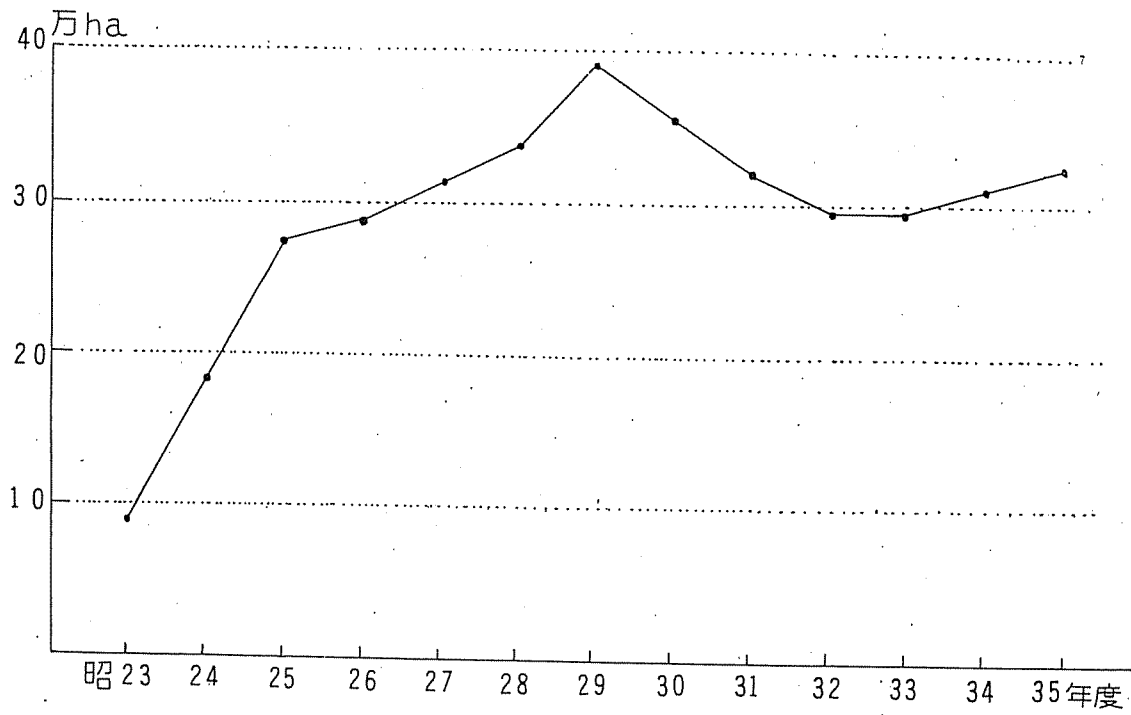
昭和36年	昭和37年	昭和38年
1,488,000	1,777,000	1,945,000

参 考

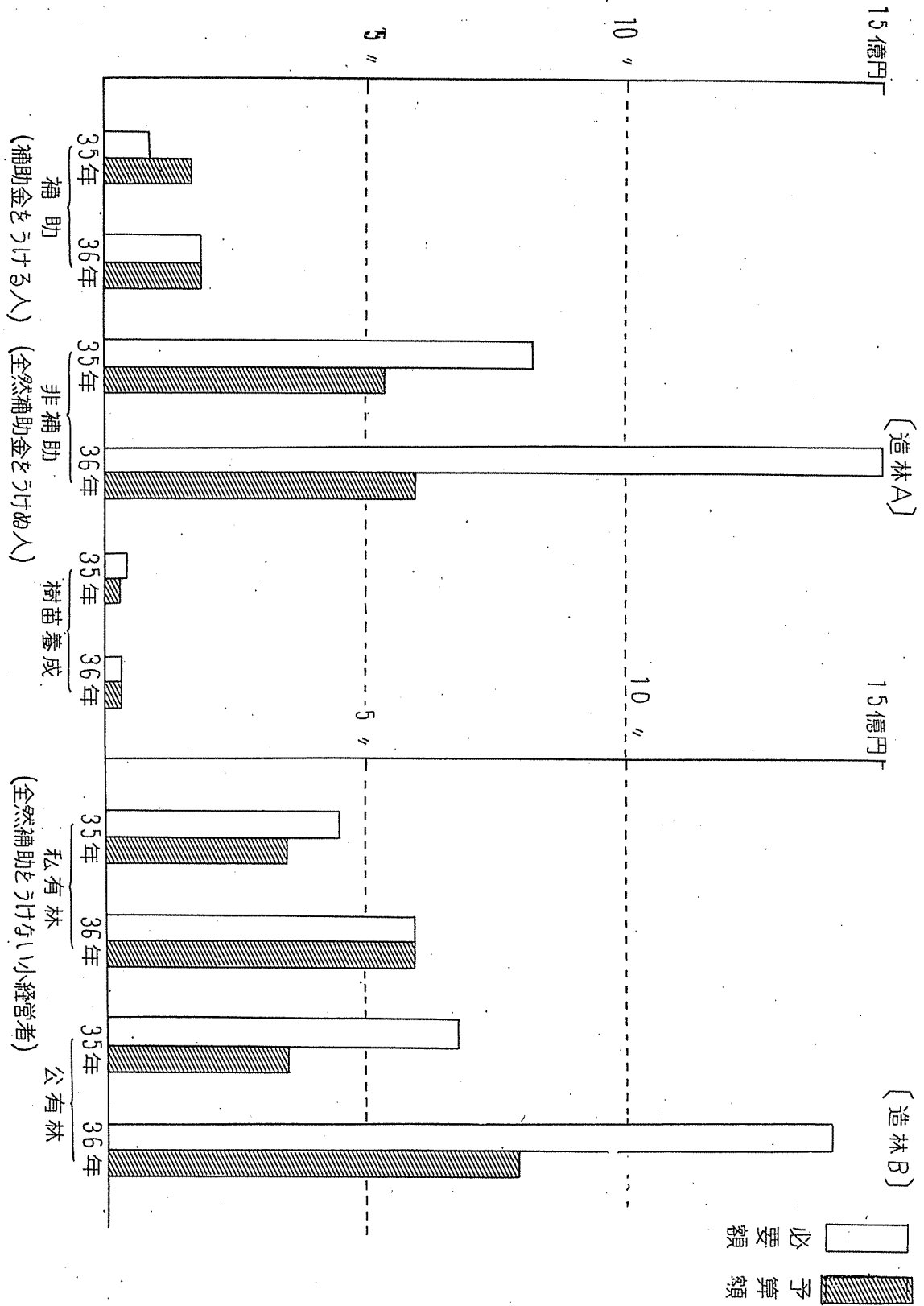
(1) 木材需要の将来



(2) 私有林造林面積の推移



(3) 造林融資額の内容比較 昭和35～36年(予)





(4) 昭和33～36年 造林融資額 (36年度予定)

